

東京都立富士高等学校 グランドデザイン 令和7年度版

【スクール・ミッション】

「教養、調和、挑戦」を目標とし、自主自律、文武両道の精神の下、6年間一貫通貫した探究活動を中心とした教育活動を通じて理数的課題発見力・解決力を育成するとともに、新しい価値観と既存の価値観を調和させ、社会の課題を解決するために自己の限界に挑戦できる人間を育成します。

【教育理念】 自主自律・文武両道	【スクール・ポリシー】		
	○グラデュエーション・ポリシー	○カリキュラム・ポリシー	○アドミッション・ポリシー
【教育目標】 教養 知性を高め、教養を深める 調和 品性を養い、感性を磨く 挑戦 自ら判断し挑戦する精神を高める	富士山の裾野のような幅広い教養と高度な理数的発見力と理数的解決力を身に付けさせることで課題発見力と課題解決力を育成し、これらの力を活用して、新しい価値観と既存の価値観を調和させ、社会の課題を解決するために自己の限界（高嶺）に挑戦できる人間を育成します。	文理を問わないリベラルアーツ教育や生徒が主体的に運営する特別活動をおとして、「教養力」「調和力」「挑戦力」を育成します。特に、スーパーサイエンスハイスクールとして、全校生徒が教科「理数探究」を履修して課題研究「富士未来学」に挑戦する中高一貫理数教育カリキュラムを中心とした探究的な学びを、全教員・全教科体制で実践し、「挑戦力」「理数的発見力」「理数的解決力」の3つの力を育成します。	本校は、「自己調整を行いながら、粘り強く試行錯誤しながら挑戦しようとする意志をもった生徒」、「挑戦力を働かせて、知的好奇心に基づいて調査しながら課題を発見しようとする生徒」、「挑戦力を働かせて、科学的な根拠を裏付けにして課題を解決しようとする生徒」、「学校行事などの特別活動や部活動に熱心に取り組み、豊かな人格の形成を目指す生徒」を求めています。

【目指すべき生徒の将来像（15年後の生徒の姿など）】

①「富士山型の人間」
富士山の裾野のような幅広い教養と高度な理数的発見力と理数的解決力を身に付けさせることで課題発見力と課題解決力を育成し、これらの力を活用して、新しい価値観と既存の価値観を調和させ、社会の課題を解決するために自己の限界（高嶺）に挑戦できる人間

②「富士山型探究者」
「挑戦力」「理数的発見力」「理数的解決力」を兼ね備え、新たな価値を創造する科学的グローバルイノベーター
富士山のように、「幅広い裾野のような理数の素養をもっている人」「空を突き抜けるほどの探究心をもっている人」「尖った科学的な改革心をもっている人」そして、「富士登頂を果たした後にも新たな山に挑戦し続ける人」



【学校の教育活動全体を通して（教科横断的に）育成すべき資質・能力】				
・ 教養力	各教科の見方・考え方を働かせる力	結論を導き出すために、根拠となる情報等で理由付けをし、表現する力	思考や判断、表現の根拠としてより良い方法で数値、または、表やグラフを活用する力	
・ 調和力	自己や他者の意見を整理統合し、より良い結論を導く力	多様な意見をもった他者と協働して、最後までやり遂げる力	グローバルな視点から日本と他国の文化との価値観の差や多様性を認め、発信する力	
・ 挑戦力	解決策が見いだされていない課題に、試行錯誤して取り組もうとする力	失敗から学び、より良い方法で実践するために自己調整しようとする力	新たな価値を創造し続けようとする力	
・ 理数的発見力	挑戦力を働かせて、疑問をもったことから課題を見いだす力	科学的に解決できる課題であることを判断する力	課題から仮説を設定し、科学的に検証できることを説明する力	
・ 理数的解決力	挑戦力を働かせて、検証計画を立案し、見直ししながら実践する力	データを収集し、統計的な手法で分析し解析する力	解析結果を根拠に、導いた結論を他の人が納得するように説明する力	

【学校の教育活動全体をとおして育成すべき資質・能力に基づくルーブリック】

育成すべき資質・能力		レベル3	レベル2	レベル1	生徒の活動場面の例
教養力	教科理解	各教科の深い知識と高度な技能を習得し、それらを駆使して、各教科の見方・考え方を働かせることができる。	各教科の知識と技能を習得して、概念を理解したり、方略を適用したりすることができている。	各教科の知識と技能を習得しているが、概念を理解したり、方略を適用したりすることができていない。	教科学習 進路学習 読書活動
	論理表現	結論を導き出すために、根拠となる情報等で理由付けをし、表現することができている。	結論を導き出すために、不確かな事象を根拠として理由付けをし、表現している。	理由付けせずに結論を導き出し、表現している。	教科学習 進路学習 委員会活動
	数値活用	思考や判断、表現の根拠としてより良い方法を吟味しながら数値、または、表やグラフを活用することができる。	思考や判断、表現の根拠として数値を活用したり、表やグラフを活用したりすることができる。	思考や判断、表現の根拠として数値、または、表やグラフを活用する方法が理解できていない。	教科学習 進路学習 委員会活動
調和力	関係形成	自己の意見を論理的に提示しつつ、他者の多様な意見を聞き、意見の整理や統合をし、チームがより良くなる結論を導くことができる。	自己の意見を表明するだけでなく、他者の意見を聞き、それに対する自己の意見を説明できている。	自己の意見を他者に気遣いつつ表明でき、他者の意見に耳を傾けることができる。	体育祭 合唱祭 文化祭 委員会活動 HR活動部活動
	協働完遂	ある目的に向かって、多様な意見をもった他者と協働して、最後までやり遂げることができる。	ある目的に向かって、同じ意見をもった他者と協働して、最後までやり遂げることができる。	ある目的に向かって、他者と協働して、最後までやり遂げようとしたが、途中であきらめている。	体育祭 合唱祭 文化祭 委員会活動 HR活動部活動
	国際理解	グローバルな視点から日本と他国の文化との価値観の差や多様性を認め、自ら発信することができる。	グローバルな視点から日本と他国の文化との価値観の差や多様性を認めることができる。	自国の視点から他国の文化の価値観や多様性を認めることができる。	海外修学旅行 海外探究研修
挑戦力	試行錯誤	解決策が見いだされていない課題の解決方法を吟味し、前向きに何度でも粘り強くやり直そうとしている。	解決策が見いだされていない課題の解決方法を吟味し、前向きにやり直そうとしている。	解決策が見いだされていない課題の解決方法を吟味し、解決しようとしたが、途中であきらめている。または、独りよがりの解決方法となっている。	富士未来学 部活動
	自己改善	失敗から具体的な改善策を考え、よりよい方法で実践するための自己調整をしようとしている。	失敗から具体的な改善策を考え、自らの行動をメタ認知し、自己評価できているが改善策を行動に移せていない。	失敗から具体的な改善策を考えているが、自らの行動を客観視することが不十分であり、自己評価に一部課題がある。	富士未来学 部活動
	価値創造	課題の発見、課題の解決、自己調整を繰り返し、さらに新たな価値を創造しようとしている。	課題の発見、課題の解決、自己調整をし、新たな価値の重要さを認識しているが、自ら新たな価値を創り出すことができていない。	課題の発見、課題の解決、自己調整のいずれかに課題があり、課題について自分本位の価値を見いだしている。	富士未来学 部活動（科学探究部）
理数的発見力	調査比較	文献調査や先行研究との比較や関連付けを行い、知的好奇心に基づいて疑問をもったことから、課題を見いだすことができる。	文献調査や先行研究を調べる中で、知的好奇心に基づいて得られた情報から、課題を見いだすことができる。	文献調査や先行研究を調べる中で、知的好奇心に基づいて得られた偏った情報から課題と考えたことをまとめている。	富士未来学 部活動（科学探究部）
	課題判断	科学的に解決できる課題であることを理科や数学の見方・考え方を働かせて、判断している。	実証性、再現性、客観性のいずれかが不十分な課題であることに気づかず、理科や数学の見方・考え方を働かせて、判断している。	実証性、再現性、客観性のいずれかが不十分な課題であることに気づかず、自分本位の考え方で課題を判断している。	富士未来学 部活動（科学探究部）
	仮説説明	発見した課題から仮説を設定し、科学的に検証できることを説明している。	発見した課題から仮説を設定し、実証性、再現性、客観性のいずれかが不十分ながら検証できることを説明している。	発見した課題から仮説を設定し、実証性、再現性、客観性のいずれかが不十分であることにより検証できることを説明できていない。	富士未来学 部活動（科学探究部）
理数的解決力	計画実践	設定した仮説を検証するための計画を立案し、計画を見直しながら実践しようとしている。	設定した仮説を検証するための計画を立案し、改善すべき点があっても、計画通りに実践しようとしている。	設定した仮説を検証するための計画の立案に不備があり、改善点や課題への対応をすることなしに当初の計画に従って実践しようとしている。	富士未来学 部活動（科学探究部） 進路学習
	分析解析	多面的にデータを収集し、信頼性のある適切なデータを抽出し、検定等の統計的な手法を用いて分析し、解析できている。	偏りがあるが十分な量と質の信頼性のあるデータを収集し、検定等の統計的な手法を用いて分析し、解析できている。	収集したデータが量的にも質的にも不十分で、検定等の統計的な手法にも不備があり、分析や解析に客観性が見られない。	富士未来学 部活動（科学探究部）
	結論伝達	データの解析から、数値に基づいた根拠を裏付けにして解釈し、自ら考えた結論を他の人が納得するように説明している。	データの解析から、数値に基づいた根拠を裏付けにして解釈し、自ら考えた結論を他の人に伝わるように説明している。	データの解析から、数値に基づいた根拠を裏付けにして解釈できておらず、自ら考えた結論が他の人に伝わっていない。	富士未来学 部活動（科学探究部）

※「教養力」は知識・技能、「調和力」と「挑戦力」は主体的に学習に取り組む態度、「理数的発見力」と「理数的解決力」は思考・判断・表現の観点で主に評価します。